

それでは、2回目の質問をいたします。

10年後のビジョンについてです。

現在の本市の市民生活の動向についてですが、夜間人口は52,460人で昼間の人口は48,646人です。比率で見ると7.3%昼間の人口が3,877人本県外に流出してしまっているのが現状です。

通勤・通学別で見ると

通勤では3,004人が流出超過 通学では873人が流出超過となっております。

即ち、通勤・通学とも他県に流出しています。

このようなことを踏まえ考慮していくと、もっと本市内に人が留まり、活動できる教育施設や働く職場環境が必要だと考えます。

昼間の人口を、夜間人口より多くすることは、経済活動が活発化する。ということなので、是非とも、その様な対応策を練って、今後の10年間の目標にしていくべきだと考えます。

学校は中高一貫校をつくり優秀な人材を市内に確保する。他市町村からの流入を目指し、大学も既存の大学の、一部の学部の誘致を進め6・3・3・4制の全ての部門が本市に存在するまちになれば、人の往来も変わり経済活動も好転すると推測いたします。

優秀な人材が育てば、職場も確保しなければならない。R&D（研究開発部門）を企業誘致する。若い人材が集まれば幸せの家庭を築く為の第一歩として最近では婚活も必要となるでしょう。……

メディアの有効利用で、もっと結城の街をスマートにプロモーション活動をし、より良い結城に作り上げる必要があると考えます。

先般、第5次結城市総合計画ダイジェスト版が各戸に配布されました。

基本構想から基本計画まで、簡潔にまとまっていて、具体的な数値目標が羅列されて非常にわかりやすい内容になっていると思います。

しかし、抽象的な表現が多く、実際に5年後には、どの様な町並みで、どのようになっているのか、想像が出来ないと申しますか、イメージが湧いてこないのが実情かと思います。

これから10年間、何処をゴールに走ればよいのか、ゴール地点が明確になっていないのが現状と伺えます。「10年後の最終帰着点はここにある、だから市民の皆さんと行政で、共に汗を流し頑張って、よいまちを創っていきましょう」、という事が初めて言えるのではないかと思います。

健康・福祉面、都市・環境面、産業面、教育・文化面、自治・行財政運営面、各分野ごとにでも結構です。目指すべきモデル都市があれば具体的に教えていただき、10年後のビジョンについてお伺します。

次に、知・徳・体のバランスのとれた教育についてです。

本員、選挙公約でもある「次代を担う青少年に夢と誇りを持てる街に！」をスローガンに剣道・ライオンズクラブ等を通して青少年健全育成に取り組んで参りました。

子どもは、かけがえのない「今」を生きる存在であり、我が国の、さらには世界の未来を担う存在です。子どもの育成・支援に当たっては、あらゆる角度からの教育が必要だと思います。

知育についてです。

先ほどの答弁でもありましたように、もっと学力を向上させる事が必要と考えます。

東北・北陸地方の小中学生の学力は全国トップクラスです。

友好姉妹都市である、福井市の福井県は全国第2位、長井市のある山形県は全国第8位。このような姉妹都市と交流を深め、教育方針や教育方法等々を現地で実習し、自らが考え指導するような能動的教育スタイルをとっていけば、更なる知育の向上策が図れるのではないかと思います。

徳育と体育についてです。

平成24年度から学習指導要領で武道・ダンスの必修化に向けた取り組みが行われていることと思います。

その学習指導要領に、

武道に積極的に取り組むことを通して、**武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して**練習や試合ができるようにすることを重視する運動です。

この「**武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して**」とありますが、本員は幼少期から剣道の教えに従い育ってきました。

結城尚武館には道場訓があり、いつも子ども達は門下生心得を唱和して稽古を終わらせております。ここで結城尚武館門下生心得を紹介します。

結城尚武館門下生心得

- 一 道場の出入りには神前に立礼し師・同輩に礼をしお互いに礼儀を正しく規律を守る事
- 二 道場は常に清掃し、整理整頓に心がけること
- 三 道場においても日常生活においても、言葉使いをはっきりとし態度を立派に服装をきちんとする事
- 四 道場の行き帰り絶対に交通事故等を起こさないよう注意する
- 五 道場の勉強のほか学校の勉強も一生懸命やること

六 剣道は心胆の修練と共に剣道を通じて人格の完成をはかるためである

道場門下生心得は、昭和 49 年結城尚武館再建に合わせ起草されたものです。

剣道人としての生き方や剣道人として必ずやらなければならない事、絶対にやってはいけない事、すなわち「規範」を定めたものです。広義に解釈すれば、これはむしろ人間としての生き方を示したものと言えます。

現在の混乱した社会情勢、子供たちを取り巻く環境を考えた時、門下生、父兄、そして指導者達が一つの規範に沿った生き方を追求することは、将来に向け極めて大切なことと言えます。自らを厳しく律して生きることの価値が正しく評価されることを強く願うところです。そして、この門下生心得 6 か条は結城尚武館誕生と共に、30 年間変わることなく門下生の心に脈々と生きています。

このように規範となるものがあって文武両道となると確信しておるところでございます。武道教育を通して、徳育が根幹をつくり、体育につながっていくものと思います。

では、具体的な知・徳・体のバランスの取れた教育について伺います。

以上で 2 回目の質問を終わります。